

第1回建築環境基準委員会 議事要旨

令和5年1月30日（月）15:00～17:00

Web 会議形式

(1) 建築環境基準委員会の設置について

(説明のみで特に質疑等はなし)

(2) 建築物省エネ法における現状の省エネ性能評価方法について

(説明のみで特に質疑等はなし)

(3) 省エネ未評価技術の評価の円滑化について

- ・基準一次エネルギー消費量の算出条件を設計一次エネルギー消費量の条件に揃えてしまうと、意味がなくなってしまうのではないかと。例えば自然換気を例にとると、自然換気を活用して冷暖房期間を短くしようとしているのに、基準一次エネルギー消費量の算出上も冷房期間が短くなってしまうと、省エネ効果が顕在化しなくなる。
- ・空調の設定温度を上げるといった運用時の工夫は建築物の性能ではないので評価すべきではないが、未評価技術の中にはその技術自身が標準的な使用条件と連動している場合があり、そうしたものについては少し柔軟に評価できるような仕組みとしたい、ということだと理解。ただ通常建築物の設計時に実使用の想定があると思われ、拡大解釈すると、設計時の想定をそのまま評価時に活用して良いとなり、何でもありになってしまわないか。
- 本日お示ししたガイドライン案で、柔軟に対応する部分、動かさない部分を全体のバランスを意識しながら整理したつもりである。
- ・省エネ未評価技術の評価にあたり、計算をWEBプログラムではなく、適切なツールであれば使っても良いということか。何をもちって適切とするか、その要件を決めておく必要があるのではないかと。
- 現時点では整理していない。何をもちって適切とするかは、省エネ性能評価機関が判断することを想定している。
- ・WEBプログラム以外のツールも可とのことだが、求められる計算の精度について、例示してもらいたい。
- 現時点では例示できないが、運用実績を積み重ねていく中で例示できるようにしていきたい。
- ・カレンダーパターンのみ通常ルートの算定方法と同一と言い切ってしまうのはなぜか。関連して、1日の使用時間についても同一とすべきということか。
- カレンダーパターンはベンチマークテストという意味合いがあるので同一であるべきだが、1日の使用時間についてはある程度変更は可能であると整理した。

- ・今後基準値が引き上げられた場合、大臣認定でないとクリアできないことになるのか。
それとも随時 WEB プログラムでも対応できるようにしていくのか。
- 大臣認定時等の性能評価を通じた技術情報の蓄積等を踏まえ、WEB プログラムの逐次見直しによって、より高い省エネ性能を評価できるようにしていきたいと考えている。
- ・性能評価の実績を踏まえ、将来的には WEB プログラムでも対応できるようにするとのことだが、その必要はあるのか。余計見通しが悪くなる印象。
- 逐次変えていくことによって混乱を生じる面もあるかもしれないが、一方で、WEB プログラムで対応しないと評価のハードルが下がらないので、きちんと周知をおこないつつ、WEB プログラムに実装すべきものについては実装していきたい。
- ・基本は WEB プログラムを使いつつ、新しい技術の部分のみを WEB プログラム以外のツールをつかっても評価してもらえるのか。
- そのように考えている。
- ・室内環境に関する条件について、何をもって同等と見なすのか。例えば照明の場合、担保すべきは明るさなのか、作業性なのか。仮に明るさだとすると、かなり自由度が上がる印象。
- 現時点では詰め切れていないが、運用実績を積み重ねていく中でガイドラインに反映していきたい。
- ・まずは空気調和・衛生工学会が整理した 15 技術を対象に検討とのことだが、これらの技術が現場でどのように運用されているのかを分析し、これは WEB プログラムに実装する、これは任意評定、これは性能評価というように、交通整理をしてはどうか。
- 運用実態を分析し、ガイドラインにどのように反映できるか検討していきたい。
- ・空気調和・衛生工学会が整理した 15 技術の中には、何らかの形で現行 WEB プログラムのどこか一つのパラメータにまとめて組み込めば、評価できるようになるのではないのか。
- ご指摘の通りの部分もあるが、そのために何を整理する必要があるか検討が必要。

以 上